

友の会の初イベント

座談会「葛飾の図書館をもっと知ろう」が開かれる

地域情報センターの役割と 時代のニーズに合わせたサービスが重要



10月25日(土)午後3時から葛飾図書館で『葛飾の図書館をもっと知ろう』というテーマで、図書館の整備担当係の担当職員2名を囲んでの座談会を開催しました。

“聞こう、話そう、わたしたちの図書館のいまとこれから”と題するこの座談会は友の会の初イベントで、会の事業委員会を中心に約20名が参加しました。

図書館とは何か、何のためにあるのかという基本的な存在理由から始まり、区内の図書館の現状、新中央図書館の開館で何が変わる?などを豊富な資料をもとに職員から説明を受けた後、参加者のざっくばらんな質問や要望などに答えてもらいました。

地域の情報センターとして、あらゆる利用者が差別なく、無料で知識と情報をたやすく入手できることを目的に図書館が存在することや、今後は区内の図書館のネットワーク体制の強化と趣味・教養のための図書館から課題解決型の、また子供の読書活動を推進する拠点としての図書館を目指していくこと、さらに新中央図書館は区内図書館のサービスネットワークのセンター機能として役割を担うことなどが話されました。

この座談会では様々な質問と要望・意見が出され、終了予定時間をオーバーし、今後はテーマを絞り、他区の「友の会」や出版関係の方々などとの話し合いを予定しています。

なお今回の座談会のおもな内容は2面を参照下さい。

■新中央図書館(仮)の

オープニングイベントに向けて

事業委員会の

取り組みスタート

十一月十五日(土)午後、第5回事業委員会が開かれ、来年秋に開館する新中央図書館のオープンに向けた取り組みが開始されました。

葛飾図書館と協力しながら、友の会としての企画を含め、区内の図書館で活動実績のある団体や個人に参加を呼びかけ、実行委員会形式で今後準備を進めていくというものです。

現在、図書館がイベント内容を企画・検討中のため、友の会としての具体的な動きには至っていませんが、友の会の予定では来春にはプレイベントとして、図書館から希望者へのリサイクル本やレコードの無償提供のスタッフ協力、またオープニング時には心豊かなまちづくりを目指したフェスティバル「友の会ウィーク」(仮称)で各種の実演・講演・展示や新図書館の案内、さらには自動貸出機を使用する方法の助言など、様々なアイデアを出し合っています。

現在の予定では来年五月までに参加団体への呼びかけを行った後、第1回の説明会を開催し、オープニングイベントの趣旨や概要を説明して実行委員会への参加を求めていく方向で検討を進めています。



新中央図書館の開館により、区内図書館のネットワーク作りと役割の明確化が課題



葛飾区立図書館玉川係長と吉村さんに聞く

■葛飾区立図書館の流れ

昭和62年までに面積4平方km、半径1.1km圏内、およそ10～20分程度の徒歩圏毎の配置基準により中央図書館（現葛飾図書館）、地域図書館6館体制の整備が完了。圏外は分館として地域図書館3館を整備した。

■区内図書館のネットワーク体制と今後の課題

貸出や来館者中心から、発信型サービスへの転換／趣味・教養のための図書館から課題解決型図書館へ／子供の読書活動を推進するための拠点／学習の場や放課後の居場所としての学校図書館活用のための支援・連携を強化する。

■新中央図書館の機能

区内図書館の調整役やサービスネットワークのセンター機能を持ち、地域館などを統括し、時代の変化に対応するサービスの提供を目指す／図書館を拠点にする宅配や障害者へのボランティアなどの養成・グループ化を行う／専門性と機動力のある職員や人材の育成を行なう など。

■地域・地区・学校内地区図書館の役割

地域の特性に応じ、地域に密着した身近なサービスに重点を置く／子ども・乳幼児を連れた人、高齢者や障害者へのサービス提供やコミュニティ活動の拠点として、また図書館利用不便区域内の学校施設を有効活用した事業を推進する など。

■図書流通センターの誕生

新中央図書館の開館による葛飾図書館の敷地の一部に図書流通センターを整備し、車両を借上げて図書資料の集配流通拠点や図書ストックヤードとしての機能をもたせる。

■サービスポイントを新設

利用不便地域や来館の困難な利用者のために、予約図書の貸出・返却窓口を図書館以外の場所への設置を検討中。

参加者からの 要望と意見

●昼間の人口の指数が23区の中で最も低い葛飾区は“郊外型”といっているし、区民一人当たりの資料費（図書購入費）も統計上、下位である。それを考慮し、対応する必要があるのではないか。

●10代の貸出が減少しているの、若者たちの読書を勧めることに力点を置く必要があるとともに、団塊の世代の増加に対応した図書の充実を求めたい。

●図書館のホームページが貧弱で、イベントなどの情報が不足しているの、特集コーナーの告知などを入れるなどして、もっと豊富な内容にして欲しい。

●各館の特集コーナーは独自性があって面白い取り組みであり、今後も充実させ、継続してもらいたい。

●内容が古く、激変する時代に対応していない蔵書がかなり見受けられるので、最新の情報を含んだ本に変えていくなど、不要本の判断を適切・迅速にする必要がある。

資料統計
館別蔵書・所蔵数

平成20年4月1日現在

	葛 飾 区	立 石	お花茶屋	上小松	亀 有	水 元	鎌 倉	四 っ 木	西 水 元	青 戸	合 計
図 書	278,977	77,285	116,131	112,838	115,215	110,990	118,975	37,379	40,433	30,764	1,038,987
一 般 書	218,570	54,701	88,267	83,995	83,100	79,472	87,815	24,914	25,330	19,060	765,224
(大活字・点字資料)	4,017	330	616	753	1,065	878	875	203	169	64	8,970
(地域資料)	16,482	1,864	3,530	2,109	2,335	2,094	1,588	518	492	427	31,439
(外国語資料)	3,228	406	670	1,083	1,233	895	717	18	63	0	8,313
児 童 書	60,407	22,584	27,864	28,843	32,115	31,518	31,160	12,465	15,103	11,704	273,763
(紙芝居)	1,068	541	434	557	626	753	741	372	285	245	5,622
(絵 本)	21,025	8,786	9,954	11,294	12,166	12,426	11,863	4,725	5,959	5,503	103,701
新 聞	27	12	13	16	12	14	13	8	9	8	38
雑 誌	297	148	177	164	160	176	153	67	60	77	664
C D	4,656	2,688	2,725	2,869	2,650	2,366	3,603	1,280	1,237	1,254	25,328
カ セ ッ ト	1,637	1,108	1,058	1,306	1,002	1,047	949	202	319	22	8,650
ビ デ オ	1,655	47	53	42	45	75	65	19	7	5	2,013
D V D	540	15	23	17	17	16	15	8	8	8	667
16ミリフィルム	655	0	0	0	0	0	0	0	0	0	655

* ()は内数

* 新聞・雑誌はタイトル数

* ビデオは葛飾図書館のみ(その他の図書館は広報ビデオ)

区内各図書館の蔵書数

(葛飾図書館提供)

区内の図書館探訪記

広報委員会は今後、区内の図書館を順次訪問・取材していきます。
おたずねした2館の館長さん、ご協力有り難うございました。

お花茶屋図書館

「弱者への眼差しと啓蒙活動」

ポリシーにそった独自の行事

ー 吉宗公から名を賜った地にあってー

京成線から徒歩10分に位置するこの館は、昭和52年開館の4階建て。階段のポスターが目目を射る。蔵書数は11万余。「近隣に学校、中小企業、商店街を控える立地条件で誇るべきはマーケティング書の充実」と、館長の吉田氏と職員の大島氏。更に葛飾区ゆかりの資料を揃える郷土資料室がしつらえられている。

社会にあって「共生」が謳われている昨今この館はハンディを持った方への配慮も怠らない。エレベーターの内外には点字プレートを設置。音訳奉仕の実施。書架の間は車椅子通行可能なスペースが取られ、書籍、CDも目線の高さに配列。又、館に伺えない方への配本サービスや、視野障害の方への拡大写本のオーダー・メイドを立案。

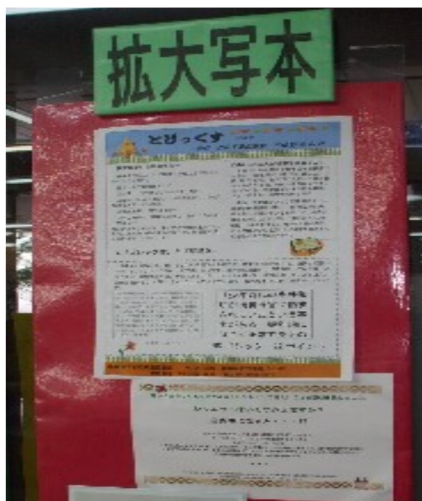
ー「文化を育む館」を目指してー

ユニークなのは中学生と館との架け橋を主眼とした職務体験講座の開催。

選書、カウンター業務、配架など館員の業務を体験する講座だが「楽しかった」との反響が寄せられている。

館のスタッフは常勤4名、非常勤12名。両者の別なく館員の通曉は古今に渉る。職員が一丸となって力を注ぐ今年のイベントは講演会。これは館独自の企画。因みに今回は児童作家の杉山亮先生を招聘し「育児の話」を。加えて一日映画会も。名作を1日3本立てで上映する。館のポリシーは「文化を育む館」。

館長は「日比谷」大島氏は「浦安」と各々理想とする館を披瀝。この志が「地域密着型」文化施設の原動力なのだろうと考えた。（取材／西村、高橋）



上小松図書館

外国語の本が充実、「語学コーナー」の書棚も

江戸川区民も利用するボーダレス図書館

ー“ハリ・ポタ”中国語版もー

この図書館は開館から30年以上というから、区内でもかなり古い。蔵書は閉架を含め約10万冊。外国語の本が充実しており、日本語の勉強のための英語の本は勿論、中国語やハングル語を中心とした「語学コーナー」がある。

最近中国人の方々がよく利用されているということで、中国語版“ハリ・ポタ”の本が。

近くの中学生在がよく利用するという15年分の読売新聞の縮刷版がズラリ。パソコンを持参すれば利用できる机が全部で6席。

隣接する江戸川区民も利用するというこの図書館、児童フロアは狭いが、会議室などを使って、毎月幼児向けの「おはなしかい」などや映画会も開催。特集コーナーもあり、10月のテーマは、「やさしく自然に生きる！

ナチュラル」。小さいテーブルに関連書籍が並んでいた。

ー月刊紙『かみこらむ』を発行ー

図書館発行の『かみこらむ』では新着図書案内や、似顔絵つきの“館長のつぶやき”と題するコラムも掲載。新着図書の背表紙のコピーが柱に掲示され、一目瞭然。休館日の翌日はリサイクル本が出される。ヒモ状のしおりは、本の中に納めて棚からでないよう心掛けているという。

蔵前橋通りに面している窓は騒音防止のため二重。案内していただいた長田館長は「今後、地域の郷土資料を充実させたい」と抱負を語られた。（取材／中里、宇佐見）



語学コーナーと
パソコン用ブース



ダレル・ハフ『統計でウソをつく法』

講談社ブルーバックス



ニューヘブリデス島ではシラミは健康のもとだと信じられています。これは、健康な人にはシラミがいるが病人にはいない、という経験的な事実にもとづく結論だそうです。このように、データは正しいが結論は誤りという例が満載されていて、笑って読んでうちに賢くなることができます。知識の量よりも知識を判断する力が必要です。日本語訳の初版は1968年に発行され、2008年には第81刷に達しているロングセラーです。

書名は **How to Lie with Statistics** ですが、決して詐欺を奨励しているわけではなく、数字のトリックに騙されるな、という手引きです。私は新聞社などのマスコミ関係者に、現象や事実から間違った推論をしないための教育研修をしています。この本を参考書に推薦しています。類似した本は沢山出版されていますが、ダレル・ハフの本はお薦めの1冊です。

あさのひろひこ
葛飾図書館友の会副会長 朝野熙彦（首都大学東京大学院教授）

「葛飾図書館友の会」で一緒に活動してみませんか！

＝入会のご案内とその手続き＝

「友の会」は多くの会員によって活動しています。来年の新中央図書館の開館を控え、図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々に、是非入会していただき、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを出しあいながら少しずつ実現してみませんか？

入会にあたっては葛飾図書館の整備担当係に入会届けをご提出の上、

年会費（一般会員1,000円、賛助会員2,000円）を下記の口座へ納入して下さい。

なお、葛飾図書館での年会費の直接納入はできません。年会費の納入振替口座は下記の通りです。



ゆうちょ銀行 口座番号 00100-7-392065
口座名称 葛飾図書館友の会

「通信欄」には一般あるいは賛助会員の否かを明記の上、20年度年会費とご記入下さい。

振替手数料は銀行窓口では120円、ATMからでは80円です。恐れ入りますがご負担をお願いいたします。

■ 問い合わせ・連絡先は下記の通りです。

葛飾図書館整備担当係（吉村さん、清水さん）Tel 03-3607-9201

多くの皆様のご加入をお待ちしています。

友の会広報委員会

委員長 高橋 久郎
副委員長 中里 隆二
赤川 芳晴（制作）
宇佐見 精三郎（〃）
西村 喜久子（記録）
林 ナオミ（〃）
宮廻 君子（会計）
原田 匡子（〃）
横嶋 昌子
石井 一彦

▼「コピー機がなかった頃を覚えて
いますか？」。記憶にある私の初コ
ピー体験は一九七三、四年時分。近
所の文具店に持ち込み、操作は店主
頼みで一枚40円くらいだったろうか。
ややあつて図書館にもコピー機があ
り一枚10円？のコストですむ事実に
気付いた。下つては今や街中のコン
ビニの必需品にもなり、大量の複写
も気軽に取れる時代▼気になる個所
を一字一字書き写した昔に比べ筆跡
が雑になった被害（？）を感じるに
しても、この便利さはもう手放せな
い▼紀田順一郎さんによれば料金箱
に硬貨を入れてセルフサービスでコ
ピーが取れるシステムは葛飾区の立
石図書館が嚆矢とのこと。意外なト
コロで区民として胸を張ってしまう
のだった。（林）

